

キャラクター名
鈴蘭

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ	ワークス	レネガイドビーイングA	カヴァー	UGNエージェント
	エンジェルハイロウ				
オプション		年齢	16(見た目)	性別	女
覚醒	渴望	衝動	妄想	初期侵食率	36%
出自	使命	経験	旅	邂逅	上司

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	14
感覚	6	0	0			6	(非装備時)	14
精神	2	0	0			2	戦闘移動	19
社会	0	0	1			1	全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
アサシナイター (インプレム)	射撃	6r	0	7		行動済みのキャラクターを対象にする時ダイス+3

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: UGN	
ウェポンケース	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 光使い	P	N		
パール: 芽愛	P 幸福感	N 恥辱		
レヴァ	P 同情	N 無関心		
篠宮 涼 (消去)	P 別カコイヒ	N てもやっほの怖い		
火野 ヒサコ	P 尊敬	N ぼんぼん		
恐怖政治 (タイタス昇華)	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: Cr値-Lv								
光の指先	5	2	M/R	-	-	-	-	
効果: ダイス+[Lv+2]個								
神の眼	1	1	リアクション	至近	自身	対決	-	
効果: <知覚>でドッジ								
死点撃ち	5	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 攻撃力+[Lv×2]								
ピンポイントレーザー	1	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果: 攻撃力-[5-Lv]。装甲無視								
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動成功	RB	
効果: 衝動判定のダイスを+Lv個。浸食率基本値を+5								
オリジン:プラント	5	2	マイナー	至近	自身	自動成功	RB	
効果: 感覚を使用した判定の達成値をシーン中+[Lv×2]								
リフレックス	3	2	リアクション	-	-	-	-	
効果: Cr値-Lv								
	★	-	メジャー	至近	自身	自動成功	-	
効果: 散乱する光で周りを探知する。必要なら知覚判定								
	★	-	メジャー	視界	単体	自動成功	-	
効果: 聴覚の指向性を高める。必要なら知覚か意思判定								

【設定】
私は生まれた時は一輪の花でした。目の前には優しくそんな小学生くらいの女の子。私を見て綺麗と褒めてくれた子でした。その子は朝起きて私に水をくれながら挨拶をし、帰ってきたら私に学校や放課後にあった楽しいことを幸いことを話して、夜はおやすみといって眠るのです。私はその子が大好きでした。でも、隣の部屋から聞こえる夫婦喧嘩はとても嫌いでした。ある日、その子は「鈴蘭はね。もう一度幸せを送ってくれるんだって。また昔みたいにパパとママと楽しい日が来てくれないかな」と言うてきました。困りました。何かしてあげたいのですが、ただの花の私に何ができるのでしょうか・・・私にはこの子の願いが叶うことを祈ることしかできなかったのです。・・・翌日、彼女は夜になっても帰ってきませんでした・・・隣から聞こえる声を聞くと、「ユイが事故で死んだ」そう言う声が聞こえました。ユイとは私のお世話をしてくれてる子で、今まさに心配してる子だ。冗談であってほしかった・・・嘘であってほしかった・・・あの子の幸せを願ったはずなのにこんな事・・・しばらくすると母親と思われる人がやってきました。そして、「あの子が死んでくれたおかげで、やっとあの人と別れられるわ。幸せを送ってくれてありがとう」そう言うてきたのだ。違う・・・私はそんなの願ってない！そんなことしてない！やがて、母親はいなくなり、私は渴望した。この世のすべての絶望を消し、皆が幸せになる世界を作るだけの力を。そう願うと、彼女の体は植物から人へと変わる。世界が力を与えてくれたのだ。これなら・・・この力なら！そう思い飛び出す鈴蘭。・・・この先の絶望を知らずに彼女は駆け出した。そう、駆け出した世界は地獄だった。いくら守ろうとしても誰かを切り捨てなければならぬ結果が待っていた。多勢を救うため、少を切り捨て。多くの人を救うために引き金(絶望)を引いた。その姿を見てか、アッシュ・レドリックという男が鈴蘭を勧誘した。「人を救いたいならば私の下へ来たまえ」と。疲れ切っていた鈴蘭はそれを承諾したが、待っていたのは今まで以上の殺戮だった。「もう嫌・・・嫌だよ・・・誰か。誰か助けて・・・」常に瞳に涙をため祈るように引き金を引く。少女の願いを少女の泣き声をかき消すかのように銃声は響き渡る。

現在
ジャームとなりFHIに
幻魔王と名乗り、暗殺者セル「幻光」を立ち上げている